

谷口委員

今日はありがとうございます。大和市選出の谷口でございます。

私から 1 点お伺いしたいことがあるんです。私は、大和からこちらに来るのに、みなとみらい線を使うんですけれども、慶長地震の浸水予測図で見ると、この辺も浸水があり得るということで、地下鉄への水の流入というのは想定されているんでしょうか。もしそうであるならば、その対策はどのようにすればいいのか、その辺をお伺いしたいと思います。

柴山参考人

私が知る限りにおいて、地下鉄の入り口の高さが低いところについては止水板を付けたかすることは、横浜市営地下鉄でも考えていらっしゃると思います。ただ、それで十分かどうかについては再検討が必要だと思っています。新しくできた地下鉄は、いろんなことを考えて止水板もきちっとしたものを作ったということですが、古くからあるものについては、必ずしも十分な検討をしていたとは思いませんので、もう一度再検討する必要があると思います。

東京の地下鉄の場合には、例えば東西線みたいな古い地下鉄はいろいろ工夫をしているんですが、一度水路の中に流れ込むとなかなか排除するのは困難だということになりますので、これも今後考えていかなければいけない重要な項目であると思います。

谷口委員

それは流れ込むのを入り口のところで防ぐというよりも、流れてきたものをきちんと排水をするというか、そういうものがきちっと新しいところは用意されているということでしょうか。

柴山参考人

私の研究室でシミュレーションをしました。地下鉄の、人が通る階段がありますよね。あそこに沿って水がどんどん地下に流れ込むわけですね。ですから、まずは入り口のところで防ぐことが必要です。それから、中に入った水がどうなるかというのは、その地下鉄の駅がどこにあるかによるわけですが、水がたまる場所というのがあるんですね。水がたまる場所については、低いところに流れていってしまうのでくみ出す必要はないですが、一番低いところでは、いずれくみ出す必要がある。

横浜の地下鉄はそんなに深刻ではないですが、東京の古くからある地下鉄については、かなり深刻な問題として今研究しておりますので、入り口で入らないように止めることが第一弾で、たまってしまったものをどう排除するかが第二弾の方策になるということで、どちらも必要であります。